



まえむきに
ひたむきに
純情産地
いわて

2022

いわて純情むすめ卒業



ささきともみ
佐々木 智美

印象に残っている活動は『岩手県産夏野菜のソーカレー』をPRしたイベントです。岩手県、JA全農いわてがハウス食品とコラボするイベントに参加でき、とても楽しかったです。「加熱したトマトが甘い!」と試食した達増拓也知事も絶賛していました。改めて、岩手の野菜やお米が新鮮で上質な物であることを実感しました。また、野菜を素揚げして添えることでカレーが引き立つことを学びました。多くの活動を通して経験したことを今後の人生に活かしていきたいです。他にもさんさ踊りなど貴重な活動をさせていただき、JA全農いわてのみなさまには感謝が尽きません。本当にありがとうございました。



たかはし れいな
高橋 怜那

1年前は「岩手県って何があるの?」と友人に尋ねられても、大谷翔平選手の出身地くらいしか答えられなかった私ですが、今は「銀河のしずく、りんご、牛乳、野菜、お肉…」沢山の魅力を答えることができます。純情むすめに就任してからは、スーパーでも県産の物がよく目につくようになったり、他県のお米と食べ比べをしてみたり、今まで関心が薄かった農畜産物を意識するようになりました。特に、今までパン派だった私を米派にした『銀河のしずく』は、友人や家族も絶賛してくれました。地元岩手県を沢山知ることができて、良い経験になりました。これからも岩手県の魅力が沢山の人の心をつかむ事を願っています。1年間ありがとうございました!



まつかわ なちか
松川 奈愛

普段美味しいとだけ思っていた1日3回の食事が「どこの野菜が使われているのか」「今日はこの種類のお米を食べてみよう」など、楽しみな時間になりました。また、社会人になって研修で関東に行きましたが、岩手県で育った新鮮な食材のおいしさがとても恋しくなりました。農畜産物の販売促進で様々な場所でお客様とお話する中で、農畜産物を作ってくださる方や、岩手の食材を買ってくださる方などに、感謝の意を伝えることができました。また、祖父母の家でりんご農家をしていることもあり、農家を応援したいといわて純情むすめに応募し、Instagramやイベントで足を運んでくださった方に農畜産物の美味しさを伝えられたことが嬉しかったです。



はっとり さき
服部 咲希

どの活動もすべて印象に残っているので、コレ!と1つに選ぶのは難しいのですが…自分自身をすごく成長させてくれたのは、県外での販促活動や業務でした。今年はコロナ禍ではありながらも、県外で業務ができる機会を多く頂いたのが嬉しかったです。県外の方に岩手の農畜産物の魅力をPRするのに苦戦することも多くありましたが、業務を重ねていくにつれて、岩手のことについて自分自身が改めて学ぶことも多かったですし、成長することができました。1年間、本当に本当にありがとうございました!!!



いわぶち はるか
岩淵 春花

いわて純情むすめとしての1年間は人生で一番充実していました。活動日が近づくワクワクして、「どのようにPRしたらみなさんに伝わるかな」と考えて眠れなくなることもありましたが(笑)活動を通して学んだことは「いわての農畜産物はみんなに愛されている」ということです!「銀河のしずくは1番美味しい」「関東にいても岩手のりんごが食べたくなる」そんなお客様の声をたくさん聞くことができました。このような声を聞く度に、純情むすめとして活動できている事を誇りに思えました。最後に自分の名前でも純情産地いわての魅力を伝えます!
は: 初めて食べた時の衝撃!産地が目につく新鮮さ!
る: るんるん! 栄養満点で心も身体も幸せに♡
か: 感謝!農家のみなさん、愛情たっぷりの農畜産物をありがとうございます!



1年間「純情産地いわて」のPR活動をしてくれた5名は今月末で卒業を迎えます。いわて純情むすめはこれからも純情産地いわてを応援します!

「銀河のしずく」「金色の風」

令和5年4月29日(土)



自慢のお米をおにぎりでPR

「いわて純情米」のPRを目的に、「銀河のしずく」「金色の風」のおにぎりを配布するイベントが盛岡市と花巻市で開催されました。

本イベントは、岩手県や本会で構成する「いわてのお米ブランド化生産販売戦略推進協議会」が、今年1月に制定された「銀河のしずくの日(4月29日)」から「金色の風の日(5月29日)」まで展開する「いわて純情米消費拡大月間」のキックオフイベントとして実施しました。

「銀河のしずくの日」は盛岡駅、花巻空港、イオンモール盛岡南でおよそ2500セットのおにぎりを配布し、盛岡駅では「いわて純情米応援団長」であるお笑いタレントの天津木村さん、いわて純情むすめ^{まつかわなちか}の松川奈愛さん、岩手まるごとおもてなし隊メンバーが参加しました。天津木村さんは「岩手に移住してから田んぼの稲が育っていくようすを見る機会が増え、いっそうお米が美味しく感じられるようになりました。帰省や観光などで県外からいらした方々に『岩手のお米は美味しい』という正直な気持ちをシンプルに伝えたい」とコメントしました。「いわて純情米、あると思います!」という決めゼリも飛び出し、会場を沸かせました。



「銀河のしずく」「金色の風」のおにぎりセットを手渡し天津木村さん



おにぎりを手渡し「いわて純情米」をアピールする、いわて純情むすめの松川さん

園芸育苗センターでの研修受入について

令和5年5月12日(金)

「岩手県立農業大学校」学生28名が野菜苗生産を現場実習

岩手県立農業大学校、野菜経営科の学生28名が、5月12日(金)に本会が運営する園芸育苗センターを訪問し、苗作りに係る一連の工程について学習しました。

参加した学生からは、「きゅうり苗とカボチャ苗の接ぎ木の精度向上のためにどういった工夫をしているか?」「生産した苗はどういった経路・単価で生産者の手元に届くのか?」「使用済の培土の再利用についてはどう考えているのか?」等、工程の説明の都度、鋭い質問が投げかけられ、短い時間でしたが密度の濃い研修となりました。

本会では引き続き、こうした取り組みを通じ岩手の未来を支える若者・学生をサポートし、地域社会の一員として、強く「根を張る」活動をつづけてまいります。



学生28名が苗作りを学ぶようす



「いわて純情野菜販売対策会議」開催

令和5年5月16日(火)



販売目標158億円 関係者一体で販売強化へ

5月16日、盛岡市内のホテルで「いわて純情野菜販売対策会議」が開催されました。県産野菜の本格出荷を前に本年度の事業推進方針や販売対策などを関係団体間で協議し、販売強化に向け万全を期することが目的です。生産者代表として岩手県農業大型野菜経営者協議会のメンバー、各JAと県担当者、県内外の青果会社、運送会社や価格安定基金協会の関係者などおよそ70人が出席しました。

本会の佐竹雅之副本部長は「食や農業を取り巻く環境が大きく変化している中、純情野菜の確実な販売と生産者の所得向上に向け、関係団体一体となって取り組んでいきたい」と挨拶をしました。その後、令和5年度の園芸事業推進方針、いわて純情野菜販売対策、各JAの園芸重点推進対策などについて協議が行われました。今年度の販売目標額は昨年実績比3割増の販売数量67,000トンで、158億円を目指します。



およそ70人が出席した会議の様子

達増知事が「銀河のしずく」田植え

令和5年5月18日(木)



5月18日、紫波町内の圃場で、JAいわて中央主催で達増拓也岩手県知事による「銀河のしずく」の田植えが行われました。絶好の田植え日和のもと、達増知事自ら田植機を操縦し、水を張った田んぼに青々とした苗を植え付けました。

銀河のしずくは、岩手県がおよそ10年かけて開発したオリジナル品種。粒が白く、冷めても変わらない美味しさが特徴で、2018年から5年連続で日本穀物検定協会の食味ランキングで「特A(最高評価)」を獲得しています。また、倒れにくく、病気に強いことから栽培がしやすいのも特徴のひとつです。

自ら田植機を操縦し田植えを体験した達増知事は「しっかりと土壌が整えられた立派な田んぼで、気持ちよく田植えをすることができました。改めて、生産者のみなさんが長年にわたって技術を磨き、この銀河のしずくというお米を丹精こめて育ててくださっていることを実感しました」とコメントをしました。また、今年は作付面積を大幅に拡大することから「品質の高さに加えて流通量も増え、県外にも大きく売って出ることができる。県としてもしっかりとアピールしていきたい。全国の消費者のみなさんに喜んでいただける実りとなるよう、一緒に頑張ってもらいましょう」と、生産者を激励しました。



機械操作について説明を受けたあと、自ら操縦し田植えをする達増知事



達増知事はじめ、出席者揃って記念撮影

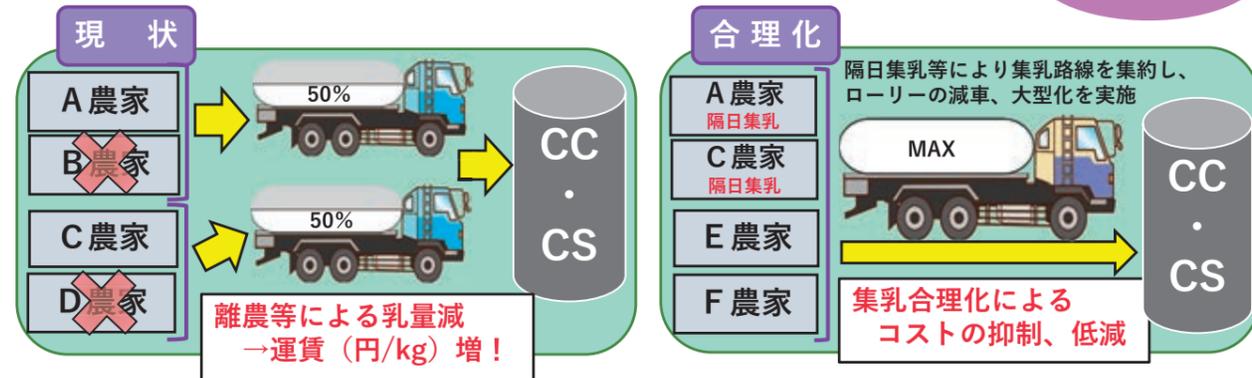
集乳合理化によるコストの抑制・低減

隔日集乳等の集乳路線合理化の取組を支援し、集乳コストの抑制・低減を図ります。

- 集乳回数半減、集乳路線数の削減⇒**輸送距離の短縮、一輸送あたりの乳量増による燃料代の抑制**

- 路線見直しによるローリーの減車、大型化⇒**集乳車の維持管理コストの低減**

「集乳合理化推進事業」を活用しよう！



酪農ヘルパー組織の体制強化

▶ 人材確保

職業説明会、インターンシップ、認知度向上に向けた取り組み等を実施します。

▶ 定着率向上対策

研修会の開催、職場環境改善への支援等を行います。

▶ 協力体制の構築

利用組合を超えた協力により、酪農家のゆとりの確保、経営継続を支援します。

令和4年度の
インターンシップ
参加者は
延べ15名でした！

そのうち、4名が
酪農ヘルパーとして
採用されました！



酪農理解醸成

▶ 酪農出前教室

生産者、農協、乳業関係者の協力のもと、小学校を対象に牛に関するクイズや飲み比べ、搾乳体験を通じて酪農の魅力をお伝えします。

今年度は、計23校で実施予定です。

▶ Instagram

SNSを活用して、県内酪農関係イベントや牛乳を使用したレシピ等を紹介します。



牛乳・乳製品消費拡大

▶ キャンペーンの実施

牛乳・乳製品の購買意欲向上を目指します。

- 計画
- 3～5月：いわての牛乳春ものでねキャンペーン
 - 6月：いわての牛乳月間キャンペーン
 - 12～2月：いわての牛乳ありがとうキャンペーン（予定）

▶ CMの放送

牛乳の魅力をもっとPRするために、新CMを制作します。

▶ その他

スポーツ大会等での牛乳配布を行い、「いわての牛乳」の認知度向上を図ります。

生産性向上の取組

▶ 新ETシステム受精卵移植

乳牛・肉牛の改良と畜産酪農基盤の維持拡大を目的として、乳牛雌受精卵、和牛受精卵の移植に取り組んでいます。

令和4年度は約1,600頭実施しました。

今年度も引き続き成績の向上に努めながら実施します。

▶ 乳牛借り腹受精卵移植

不受胎牛を中心とした乳牛を受精卵移植で受胎させ、飼養牛更新率を下げることを目的に実施しています。

移植にあたって農家負担がなく、生まれた産子を初生牛F1価格で引き取ることで個体販売収入と哺乳作業の軽減が図られます。

令和4年度は年間800頭の移植を実施しました。

不受胎でお困りの場合は気軽にお問い合わせください。



INTRODUCTION

畜産酪農部

畜産酪農部（酪農）の取り組み

令和5年度の全農いわて生産指導課、酪農課のメンバーと主な取り組みをご紹介します！

生産指導課



メンバー

- 大津 信一（畜産酪農部次長）
- 千葉 祐一（課長）
- 坏 早央梨 ● 土生川 佳世
- 高橋 貫生（新入職員）
- 村上 侑亮（新入職員）

主な業務

- 乳質改善指導
- 受精卵移植
- 農家採卵事業
- 農家・公共牧場等の巡回指導 など

酪農課



メンバー

- 鎌田 大樹（課長）
- 石川 直幸（課長代理）
- 佐藤 和敬 ● 畠山 文美
- 奥平 真生 ● 菊池 真永
- 佐藤 夏澄

主な業務

- 乳代精算 ● 乳牛購買事業
- コールドセンターの維持管理
- 酪農ヘルパー事業の運営管理
- 消費拡大事業・理解醸成
- 基盤対策・補助事業の窓口 など



いわての牛乳
公式 Instagram はこちら！



いわての牛乳月間
キャンペーン応募はこちら！





6月1日は「牛乳の日」、6月は「牛乳月間」

世界的にはFAO(国際連合食糧農業機関)が2001年より、6月1日を「World Milk Day(世界牛乳の日)」と定めています。日本でもこれに合わせる形で、6月1日を「牛乳の日」、6月を「牛乳月間」と決めました。

本会では、この期間に合わせて、牛乳乳製品の消費拡大に向け「いわての牛乳月間キャンペーン」を実施します。牛乳に関するクイズに答えると正解者の中から抽選で30名様に「いわての牛乳乳製品セット」、Wチャンス賞として70名様に「いわての牛乳オリジナルボールペン」が当たります。ぜひQRコードからご応募ください。

また、盛岡駅ビルフェザン内にある純情産地いわての店「みるのダイニング」では、牛乳月間限定メニューとして、(株)おおのミルク工房おおのミルク村「ゆめヨーグルト」を使用した「ラッシー」とJAいわて中央産いちごを使用した「いちごミルク」が期間限定で提供されます。

「いわての牛乳」をたくさん飲んで、酪農家を応援しましょう。

● 合計100名にプレゼントが当たります ●



▲ Wチャンス賞のオリジナルボールペン

どの乳業メーカーの商品が届くかお楽しみに! ▶



● 期間限定メニューが味わえます ●



いちごミルク



ラッシー



みんなの分教場



園芸部
生産販売課
三田 重雄

自分の目で土の構造や根の張りを確かめてみよう

見えないところを
しっかりと観る目を養う

昨年度は多くの品目で減収となりましたが、安定した収量を確保できている農家がいるのも事実です。そこで、令和4年12月に雨よけピーマン栽培農家3戸を対象に土壌断面調査を行いました。

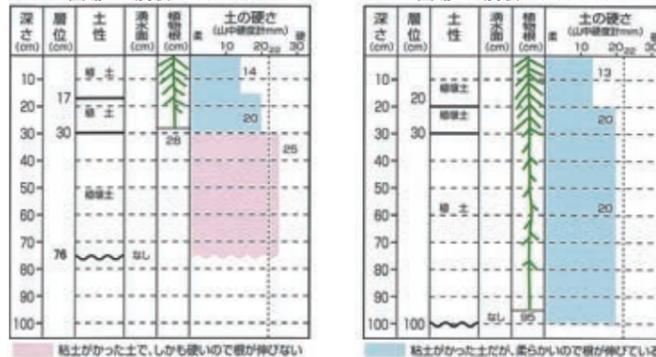
野菜栽培において安定経営を実現するには、反収(土地生産性)を上げることが大変大切です。中でも長期安定生産が求められている果菜類では、終盤までの草勢維持が重要であり、根を深く広く張らせることがポイントの一つになります。

また、反収の高い圃場と低い圃場が混在している実態にもありますが、その差はどこにあるのでしょうか。その要因を探りたいとの気持ちに駆られ、幾度となく土壌断面調査を行い普段見ることのない土の中を調べ根の張りも調査しました。

表は盛岡農業改良普及センターが過去に調査した結果です。反収に2倍以上の開きがありますが、排水が良好で土が軟らかく根群が下層部まで発達しているかどうか、が要因の一つとして考えられました。

どうして反収に
差が出るのだろう

■表 土壌断面調査に基づく低反収圃場(左)と高反収圃場(右)の違い



注) 土の硬さが22mm以上になると根の伸長が妨げられる(と言われている)

安定生産の土台づくりを
しっかりと

現在、各地域で土壌診断が行われ化学性の改良に取組んでいますが、バランスのとれた土づくりのためには化学性の改良に加え、物理性、生物性の改良がとても重要です。

特に、普段見ることのない土の構造をしっかりと確認し、どのような土層改

省略)、根群は第3層境付近まで形成され、上層は砂主体、下層は砂と雲母系で成り立ち、高い排水性と保水力を保つことができる構造になっていることを確認しました。



■写真 高反収圃場の土の硬さ、根の分布等の確認

良が有効かについて知恵を出し合い実践することで、気象変動にも対応しつつ安定した生産を続けることが可能になります。

一方で、安定生産は「純情野菜」を消費者にお届けする責務につながる、という気持ちをもって栽培に取組んでいきたいものです。土は植物の生育を支える土台である、という認識を育み、頑張る皆さんと協同・協働で実践活動に活かしていきたいでしょう。

消費地だより



畜産販売課
木村 丈治

第23回 いわて牛後継者枝肉研究会

4月11日、東京食肉市場において県本部主催で今年度最初のイベント、「第23回 いわて牛後継者枝肉研究会」が開催されました。このイベントは岩手県内主要産地の次世代を担う後継者が肥育した和牛肉牛を一同に会し、生産者及び購買者との情報交換と相互理解を深め、今後のいわて牛の肥育技術の確立と肉質の向上並びに経営意欲の高揚を図ることを目的に岩手県内で和牛肥育経営をしている45歳以下の生産者及び後継者、または農協が推薦する教育施設で学んでいる人達が出品し、去勢18頭・雌18頭の計36頭で開催されました。

最優秀賞は、岩手江刺農協の高橋幸浩様を受賞され、2,999円の枝肉単価がつけました。出品牛全体的に体形が良く、枝肉に迫力があり、肉質・脂質が良い美味しそうな「いわて牛」が多く、上物

率100%という数字からも、生産者の日頃からの努力と日々の牛への愛情が結果として現れたと感じました。
例年、イベント前日には購買者との懇談会を開催していましたが、今年度もコロナ禍の情勢を鑑みてやむ



を得ず中止となりました。しかし、今後は産地と消費地の情報交換の場や、生産者と購買者の親交を深める場、他産地の若手生産者との意見交換の場を提供していきたいと思っております。
現在、国際情勢の悪化に起因する飼料や生産資材の高騰の影響により、生産者の経営状況は厳しさを増しています。そのような状況にあっても生産者が愛情を込めて育てあげ

た「いわて牛」の魅力を積極的に消費者に発信し続け、くわえて各種生産基盤対策を実施することで生産者を支えていきます。
「いわて牛」は、首都圏の購買者やいわて牛取扱推奨店からは高評価をいただいておりますが、今後も認知度向上やブランド力強化に取り組み、全国各地へ「いわて牛」をお届けできるよう精一杯励んでまいります。

入賞区分	J A	氏名	性別	枝肉重量	単価	販売金額
最優秀賞	岩手江刺	高橋 幸浩	去勢	604kg	¥2,999	¥1,811,396
優秀賞	岩手ふるさと(衣川)	千葉 慎一	去勢	571kg	¥2,936	¥1,676,456
優秀賞	岩手ふるさと(前沢)	千葉 辰紀	去勢	627kg	¥2,868	¥1,798,236
優良賞	岩手江刺	矢野 直樹	雌	411kg	¥2,826	¥1,161,486
優良賞	新しいわて(八幡平)	竹田 晴信	去勢	530kg	¥2,840	¥1,505,200
優良賞	いわて平泉	三浦 博正	去勢	581kg	¥2,744	¥1,594,264

販売成績	頭数	平均枝肉重量	平均販売単価	平均販売金額	上物率
今回成績	36頭	521kg	@2,565	¥1,332,900	100%
前回成績	35頭	523kg	@2,564	¥1,341,814	100%

純情人

じゅん じょう びと



管理部 総合企画課
にしかわ まどか
西川 円香さん

●趣味・特技

アニメ鑑賞

●現在の担当業務

主に広報に関する業務をしています。各種イベント企画や広報誌クララの発行、純情ショップの運営管理などを行っています。

●これからどんな職員になってみたいか

まずは一社会人として責任を持ち、仕事を着実にこなせるようになりたいです。そして、岩手県のおいしい農畜産物の魅力を上げていけるような職員になりたいと思っています。

●その他アピール

岩手に住んで5年目となりました。これからもっと岩手のことを知って、岩手の農業の良いところを発信していきたいと思っています。一生懸命がんばりますのでよろしくお願いたします！

純情産地いわての旬を味わうならこちら！

みのるダイニング MINORU DINING

岩手県産肉にこだわり、
グリル料理を中心に素材のうまみを最大限引き出した定食、丼もの、旬の逸品を
ボリューム感たっぷり提供します。
カウンター席やゆったりくつろげるテーブル席のほか、
10人まで対応可能な個室(要予約)を完備しています。
「純情産地いわて」の美味しい農畜産物を、心ゆくまで堪能ください。

純情産地いわての店
みのるダイニング
【住 所】岩手県盛岡市盛岡駅前通1番44号
盛岡駅ビルフェザンおてんせ館1F
【電話番号】019-601-7214
【営業時間】11:00~21:30(ラストオーダー21:00)



人気メニュー! 純心ハンバーグ



季節限定メニューにも注目!

おいしい日本と暮らそう JAタウン

～JA全農が運営する産地直送通販サイト～
【営業時間】平日9:00～17:00
ご注文やお問い合わせは、24時間受け付けておりますが、休業日(土・日・祝日・年末年始等)のご注文やお問い合わせ等は翌営業日に順次対応させていただきます。

いわて純情セレクトでは「純情産地いわて」から厳選した商品を自信を持ってお届けします。いわての雄大な自然の恵みと生産者の「ひたむきな想いが詰まった商品をぜひご体感ください。



純情ショップ

JA全農いわてが運営している「純情ショップ」は、県下7JAの商品や県産農畜産物及び県産酒類の販売をしています。
JAいわてグループのアンテナショップとして運営をしております。
ニッポ・エール
にっぽん生まれ、にっぽんぞだろ。
Produced by ZEN-NOH
各産地のこだわり果実を
ぜひ味わってください!
【住 所】岩手県盛岡市大通1-2-1
【営業時間】平日 10:00～18:30 休日 10:00～18:00
【定 休 日】第二・第四日曜日



純情産地いわての店みのるダイニング公式LINE開始 友だち登録でクーポンプレゼント中

盛岡駅ビルフェザン内にある「みのるダイニング」の公式LINEアカウントができました。フェアやメニューの最新情報を配信していきます。
友だち登録で旬の果物と野菜を使用した「丸搾りジュース」のクーポンをプレゼント中です。ぜひ、QR画像から友だち登録よろしくお願いたします。



みのるダイニング
フェザン盛岡店
公式LINEアカウント



2023 JAいわてグループ 農業機械フェア

6/10(土)・11(日)

AM9:00~PM4:00 AM9:00~PM3:00

会場 / JAいわて花巻本店駐車場 特設会場
住所 / 花巻市野田 316-1

イベント

- 最新ICT農業機械紹介
- 現品限り! アウトレット機 中古機販売
- 農業用ドローン紹介
- JAいわてグループ推奨 草刈機
- 共同購入トラクター即売会

※イベント内容は変更または中止となる場合がございます。

JAいわて花巻本店 駐車場 特設会場

来場者全員に粗品プレゼント!!

@154cqvgc
JA全農いわて営農LINEにて営農情報を発信中

主催 / JAいわてグループ・JA全農いわて 協賛 / 各出展メーカー

編集後記

はじめまして!管理部 総合企画課に配属になりました西川と申します。
最近気温差が激しく、毎日の服装に悩んでいます。皆様も体調にお気を付けください。
5月号から「クララ」の編集に携わっており、早く業務に慣れるように尊敬する先輩のもと日々勉強させていただいています。
まだまだ未熟ではありますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いたします! (西川)

KLARA

タイトルのKlara(クララ)は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。
全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

